

平成28年度取組状況

ものづくり工学科 ロボット工学コース

准教授

堀 滋樹

取組状況	
教育	<p>例年通り、プロジェクタを使用したプレゼンテーション方式と資料を併用した講義を行った。板書のみと比較して学生が講義内容を理解し、関心を促す効果が得られたものと考えられる。昨年度同様に学生がニュース等で得た情報を通してコミュニケーションを図ることに役立った。近年ロボット産業が注目され、雑誌で取り上げられた内容を可能な限り紹介した。</p> <p>校務、部活顧問代表、ロボットコンテスト、工作教室などで多忙な年であったが、引き続き講義内容に少しずつ手を加えていきたいと考えている。</p> <p>また、学生の予習・復習を促す狙いで課題を出しているが、負荷にならない範囲でのさらなる工夫が必要と考える。</p> <p>継続してロボット工学コース実習内容の改変に積極的に務めていく。</p>
研究	<p>本年度の卒研テーマとして、「レスキューロボットコンテストに基づく救助ロボットの開発」を引き続き実施した。高度なロボットの開発が要求されるテーマであるため、創意工夫と教育的効果があったと考えられる。</p> <p>無線LANを使用した画像伝送・遠隔操作/制御用デバイスを用いて遠隔操縦ロボットを開発した、昨年度までのロボットと新しいロボットを導入し、4回目の東京予選に参加し、次の第17回も申込み、書類審査を通過している。</p> <p>今後、ロボットのセンシング等強化していきたいと考えている。</p> <p>さらに、様々な機構やセンサを搭載したロボット製作教材サンプルとしてのレスキューロボットを用意していきたいと考えている。</p>
社会貢献	<p>レスキューロボットコンテストシーズについては、4回目の東京予選において、過去に本校の学生と製作した江戸版フィールド1種と、大阪府立高専の難波版フィールドを用意し、来校した子供たちにレスコンシーズを体験してもらい、地域への啓蒙活動に繋がっていくことができたと考えている。</p> <p>一方、日本機械学会ロボメカ部門東京・千葉合同企画の親子ロボツスカベンジャー工作教室を3日開催し、定員を満たし、大いに盛り上がった。</p> <p>また、今年度もレスキューロボットコンテスト東京予選とロボットグランプリの会場として本キャンパスに招致し、近隣住民に公開することができ、多くの方に来校していただけた。</p> <p>さらに、前述の工作教室参加親子が数組ロボットグランプリに参加していただき、その中には次年度の工作教室を希望していただけた。</p>